（口繪解說）

遼陽石室墓の漢代壁畫

過去に於ける南滿州での考古學的發見のうち、大戰後半に遼陽郊外で見出された一群の壁畫墓は特筆せらる可きものゝ一であろう。之れ等の中で最初に見出された二三に就いては既に若干の記述があるが、最も注目すべきは壁畫の摸寫が行われている際に終戰となつた爲に一般には知られていない。こゝに示したのはその古墓の壁畫の一部であつて、複雜な構造を示す石室の奥の部分の向つて右側、卽ち東壁の南半部の壁面である。描かれいるものは樓閣があり、また舞踊の光景がある。之れ等は漢の畫象石に見るものに類似として而も自由な筆致で描かれ、且つ多彩である點從來知られた營城子の壁畫を髣髴するものなることが認められるのである（U・S生）